

第1回セミナー終了後 参加者によるリフレクション（自記）から

1. 自分自身に関する気づき

- ・ロールプレイングをして想像していることが実際に起こりうるということが実感できた。その解決法もなんとなくわかった。
- ・実習などを通して、なぜ聞きたいのか、治療をするのかなど目的をもって行動することの大切さを学んできたが、再度確認出来た。
- ・問診で、“なぜ聞くのか” “この問診が何につながるのか” を患者の分かりやすい言葉で説明することが大切だと思った。だからこそ、自分が目的を十分に理解しておくことが重要で、課題である。
- ・チームプレイでケアプランを考えていくことで、短時間で多角的な視点で様々な考えが出たことで、チーム医療、チームプレイの大切さを思うことができた。
- ・話している時、相手がどう思っているのか、何を考えているのか、をもう少し意識的に考えなくてはならないと感じた（観察して）。
- ・全てのことを疑問に思うべき！ どうして？ という姿勢が相手をよく知るためのカギになると改めて思った。全体を見ようとしなきゃね！

2. HIV/AIDS に関する気づき

- ・看護する者の患者自身の力を引き出すことが大事だと思った。
- ・問診や話す内容の中に、性行為の事や聞きづらい項目が多いけれど、どこの科でも同じで、“患者さんの思いを知る” “患者さんの個別性を見つける” “生活を知る” という基本的な部分が重要なのだと気付いた。そして、患者さんの意欲を高めていくような関わりが大切だと思った。
- ・話しにくい内容を尋ね問診をしていくので、患者との信頼関係や空気感を看護師自らが作っていく必要があり、そのためには、きちんとした HIV/AIDS に対する知識や判断力が重要になっていくと思った。
- ・長期的な支援・関わりが必要であり、患者の生活に直接関係するので、全体的に見る視点も養っていくことが大切だと思った。
- ・その人自身の強みを引き出してケアしていくこともまた、長期的に関わっていくことに必要であると思った。
- ・「言いづらいのはわかるけど、聞く必要がある。なぜなら、ケアプランに関わるから。そこからプランを立てるから。でも、安心して私に話してほしい！」この構え方は自分にはなかった。安心して言ってください、と胸をはって言えるためには、知識・技術・努力が必要だと痛感した。

3. その他

- ・クイズ形式の良いところが分かった。意外とそのものに興味を持ち集中できる気がした。
- ・看護学生だから、今回知識もあつたが、知識のない方は“どこから分かっていないのかな？”“何を疑問に持っているのか”というのを理解していくことが大切だと思った。
- ・家族の支援の促し方は、実際どのようにしているのか疑問に残りました。
- ・学部2年生であっても、ファシリテーターがいたことにより、スムーズに意見を言うことができた。先輩看護師の方がいたので、モチベーションが上がった。
- ・学部2, 3, 4年、看護師さん、みんな違ってとても面白かった。4年生は目のつけどころがさすがと思う。患者さん全体をみてアセスメントできるし、自分の意見をすらすら〜って言うてしまう。4年生とケーススタディできてよかった！
2年生は2年生の視点というか、自分が気づけなかったところに目をつけていていいなと思った。学年が違うっていい！楽しい！

4. このセミナーに対する要望、改善点、または良かった点

- ・一つの疑問に対し、みんなで意見を出し合うのがよかった。
- ・時間制限のある中でやるのは大変だけど、面白かった。
- ・また何かあれば参加したいです。ありがとうございました。
- ・いろんな考え方が聞けて、たくさん頭を使えてよかったです。
- ・楽しく、本当に学びの多いセミナーでした。また行っていただきたいです！！ありがとうございました。
- ・とっても楽しかったです！
- ・他大学の人との交流がもっとできればよかったです。でも、4年生から学び、2年生からの気づき（初心？）があつて、なんだか実習を乗り越えられそうな気がしてきました。
- ・HIV/AIDSの知識も入りつつ、看護のポイントを見つけられたような気がします。



「初診時の問診」
ロールプレイ

第1回
看護系大学・大学院
HIV/AIDS看護セミナー



「ケーススタディ」
グループワーク



平成25年6月15日(土)
首都大学東京
秋葉原サテライトキャンパス

